

令和2年度学校関係者評価委員会 記録

評価委員

立川メディカルセンター常務理事 晴麗看護学校長 上原徹

悠遊健康村病院 リハビリテーション科 技師長 近藤公則

悠遊苑 リハビリテーション科 主任 平原奈緒美

晴陵リハビリテーション学院 学院長 吉井新平

晴陵リハビリテーション学院 理学療法学科 学科長 菫澤力

晴陵リハビリテーション学院 作業療法学科 学科長 上杉文都

晴陵リハビリテーション学院 事務長 五十嵐孝之

令和3年3月30日記録

新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、今年度も集まっていたく形ではなく、資料・説明をお渡しし、後にそれぞれよりご意見をいただく形を取らせていただきました。

上原評価委員は令和2年3月23日、近藤評価委員、平原評価委員は令和2年3月24日に意見を頂きました。頂いた意見をふまえ、今後の学院の運営、教育現場の改善に反映をさせていきたいと考えています。以下の通り記録します。

事務局説明・委員会意見

各細分項目について

(1)教育理念・目標について

事務局

本年度、大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請（高等教育修学支援新制度）及び認可を頂いたため、教育理念、教育目標等の情報公開を行なっております。

昨年ご意見を頂きましたメディアを使った広報について、5月から6月にかけてと8月の2期、延べ44回のTVCMをTenyテレビ新潟で放映しました。

委員会

医療界をとりまく状況に対してのリハビリテーションの位置づけを明確にする。状況によっては学生定数の検討も必要か。

メディアを使った広報は良いと思われる。私も実際に拝見し、明るい印象を持った。

学院から高校に発信している意義は十分にあると思われる。高校生や進路指導者がどこから情報を得るのかにより、また別な広報の方法・手段も考えられるのではないか（Instagramなど）

メディアの広報でどの程度の成果が得られたか？他の学校では、一度資料請求をするとその後もパンフレットが送付される。金銭的な面はあるが、学生の確保で効果があるものについては、様々な手段の検討が必要と思われる。

(2)学校運営

事務局

高等教育修学支援新制度の関係もあり、情報公開、意志目的の共有などを行なってきた。数はまだ足りないが授業の様子、学生の様子などをブログ、SNSを利用して情報発信を行うようにしてきた。

委員会

ICTを用いての業務効率化を図ると同時に個人情報を守るかの視点を明確化する必要あり。

学校の運営については、様々な状況に合わせ適正に行われていると思われる。

(3)教育活動

事務局

病院施設の方たちと接する機会（今年度は実習地訪問が主）・学校関係者評価などを利用し、業界の情報収集を行なうようにしており、カリキュラム実施に落とし込むようにしている。

委員会

教員・職員の研修、研究会への参加を促す。研究会などで業績を発表できるようにする。

コロナ禍のなか、休校期間も少なく対面授業ができたことは良いと思われる。

実習の機会が減っている他校もある中、きちんと実習を行えたことは意義があると思われる。

新型コロナウイルスの影響で、授業及び実習の調整でかなり厳しい対応を迫られることがあったと思うが、感染者を出すこともなく終えたことは良かったと思われる。

無事に終えたことは、学校関係者の対応がしっかりとなされていたことが一番だが、外部講師や各実習施設の協力も不可欠であるため、今後も連携をとっていくことが重要であると思われる。特に現在グループ施設において教員との連携を図っており、継続していくことはお互いにプラスになると思われる。開始から期間も経っているためより良い連携方法を模索していても良いと考える。

(4)学修成果

事務局

同窓会活用の話がまだ進んでいないので進めていきたい。

退学率低減のため、休学規程の変更を行った。

委員会

卒業生の動向を知ることは、進路指導においても重要と思われる。

同窓会活動への何らかの補助（金銭的なものも含め）を考慮することも一考かと思う。

休業中の学生に対してある程度定期的に情報収集を行う。悩みに対して密に対応する。

退学率低減の為の休学規程の変更は、適していると思われる。リハ職を一度は目指した学生が休学により、再挑戦する機会が得られることは良いと思われる。

卒業後のキャリア形成は、今後も必要と思われる。

(5)学生支援

事務局

個別対応ではあるが、実習その他教育環境の相談に対応するようにしている。

委員会

入学後の脱落者を少なくするための方策の検討。カウンセリングの更なる充実。

実習時の感染防止対策など、実習施設の状況を十分把握しておく必要がある。

看護学校では、定期的に保護者会を行い(各学年・年に1回)、学生の状況、実習施設の状況、就職等の状況について情報提供を行なっている。

スクールカウンセラーの配置は必要であるが、すべての学生により手厚く、丁寧な対応が必要であると思われる。リハビリ職を含めた医療職はコミュニケーションが大切であり、リハビリの対象者とのコミュニケーションでのつまづきが軽減し、より実りのある実習となるためにも、同世代以外の方との交流があると良いのではないかと。コロナ禍で難しいと思うが。学生への対応については、多岐にわたることが多く、時代の流れもあり厳しくなってきている。カウンセラーの設置は非常に重要と思われる。合わせて学生との距離間は近すぎず遠すぎず、日々コミュニケーションを取り、大きな問題に至る前に対応できたら良いと思われる。

(6)教育環境

事務局

今後はICTへの対応を検討していく必要がある。

委員会

施設・設備については常に見直しが必要。またその設備等を広く宣伝することにより、学生募集活動につなげる。

臨床実習において、学校と実習先それぞれに求められることが変わりました。今後も情報共有を図っていくことが必要と考えます。

(7)学生の受入れ募集

事務局

高校生や高校の進路指導者が必要としている情報を出せるよう対処している。

委員会

特になし

(8)財務

事務局

ホームページに情報公開をしている。

委員会

特になし

(9)法令等の遵守

事務局

必要な条件は満たしています。

委員会

特になし

事務局総括

新型コロナウイルスの影響もあり、年度初から学校活動が思うようにいかない年ではあったが、休校期間もほとんどなく講義を行えました。リモート授業も一部のみで基本対面授業主体で終えることができました。昨年よりグループ病院・施設において、教員が現場に関わっていただける機会が大幅に増え、医療現場との連携を図ることができ、教員の知識技術のバージョンアップだけではなく、学生へのフィードバックもしやすくなりました。今後も立川メディカルセンターグループ関連病院施設と調整し、現場のニーズを教育や学生にフィードバックできるようグループ病院とのやり取りを増やしていく努力をしていきます。